

4 当科における FOLFOX の使用状況

亀山 仁史・小林 康雄・島田 能史
野上 仁・丸山 聡・谷 達夫
飯合 恒夫・畠山 勝義
新潟大学大学院消化器・一般外科学分野

【目的】FOLFOX の使用状況を調査し問題点と課題を検討する。

【対象と方法】2005年5月～2006年6月にFOLFOXを行った14例を対象とした。レジメン、施行回数、有害事象、中止理由、PS等を検討した。

【結果】平均施行回数は6.9回で、平均観察期間は5.0ヶ月。全例が再発・切除不能大腸癌症例。導入時期は1st lineが3例、2nd lineが2例、3rd line以降が9例。腹膜再発後の1st lineで使用し11ヶ月間SDのPS0症例を経験している。有害事象はGrade 3, 4の全身症状が3例、Grade 3の食欲低下が1例、Grade 3の好中球減少が1例。4例でmFOLFOX6を導入したがポートトラブル等はない。現在9例が継続治療中で、5例が中止となった。中止理由としてgrade 3, 4のPS低下が3例あり、導入時PSは2であった。金銭的理由での中止例が1例あった。

【結語】短期間の投与では重篤な有害事象は少ないが、PS低下例では注意が必要である。今後は再発・切除不能大腸癌は1st lineで導入する方針である。社会的理由によっては在宅治療や経口剤なども選択肢に入れる必要があると思われた。

5 大腸癌微小転移 (ITC) に関する基礎的検討

島田 能史・味岡 洋一・西倉 健
渡辺 玄
新潟大学大学院分子・診断病理学
分野
同 消化器・一般外科学分野*

II. 主 題

1 当科における大腸 ESD の現状

横山 恒・富樫 忠之・広野 玄
河内 裕介・塩路 和彦・竹内 学
横山 純二・佐藤 祐一・小林 正明
杉村 一仁・青柳 豊・成澤林太郎*
新潟大学第三内科
同 医歯学総合病院光学医療診療部*

2 20mm 以上の大腸表面型腫瘍に対する EMR・ESD の治療成績と遺残・再発病変への追加内視鏡治療

船越 和博・伊藤 裕美・佐々木俊哉
本山 展隆・秋山 修宏・加藤 俊幸
太田 玉紀*
県立がんセンター新潟病院内科
同 病理*

3 腹腔鏡下大腸手術における 3D-CTA を用いた術前ナビゲーションの試み

山崎 俊幸・長谷川智行・中野 雅人
狩俣 弘幸・横山 直行・桑原 史郎
大谷 哲也・片柳 憲雄・斎藤 英樹
新潟市民病院外科

横行結腸特に脾弯曲部の大腸癌では、MCA・LCAのどちらが支配血管なのか、問題が生じることがある。これが術前に把握できれば、腹腔鏡手術の内側アプローチを安全確実に遂行することが期待できる。

①横行結腸左側の癌で、MCAの右枝・左枝が明瞭に把握でき、左枝のみを選択的に切離することが可能であった。

②LCAが支配血管の脾弯曲部の早期癌では、LCAだけを根部で選択的に切離できた。

③しかし、同様に脾弯曲部で、LCAが優位、MCA左枝は痕跡的な所見であったが、実際には両方同程度で、結局、両方を処理しなければならなかった症例も経験した。